「当たり前」って何だろう

福井市　進明中学校　三年　玉井　由奈

「当たり前」って何だろう。朝「いってきます」と家を出て、学校で友達と楽しく過ごし、「ただいま」と帰宅する。これが当たり前だと思っていた。しかし、この生活は当たり前ではなかった。私の弟が実際そうだった。

私が小学生の頃、一緒に登校ができなかった。このことを私は「ずるい」「さぼっている」と思っていた。病院で弟は、自閉スペクトラム症と診断された。自閉スペクトラム症とは「コミュニケーションがうまく取れない」「人と関わることが苦手」「こだわりがある」といった特性のある障害だ。

今思えば弟は、幼稚園の頃から私が大好きだったクリスマス会や運動会、小学校の入学式でさえ参加を嫌がっていた。弟はあの時、口には出せなかったが、すごく苦しんでいたのだと思う。旅行に行った時も最初は楽しそうだが、すぐに家に帰りたがる。また人ごみも苦手なのか、遊べる場所も限られてくる。家ではとても明るく、楽しそうだが外にでると人目を気にし、息苦しそうだ。

このことを考えると私や家族も無理に外へ連れていくことができず、家の中ばかりで遊んでしまっていた。

学校から帰るといつも嫌だったこと、悲しかったことなど涙を流しながら話をしていた。その時、両親は小学校に相談したり、知人に話を聞いてもらったりと弟が周囲の子と同じような学校生活が送れるよう必死だった。いろいろな人から話を聞くと、弟のように学校に行けず悩んでいる子がたくさんいることが分かった。どうして学校に行くのが嫌なのか。その時の私には分からなかった。

先生方のおかげで小学校に少しずつ行けるようになった。学校生活の中に、弟の「居場所」ができたのだ。弟のペースにあわせて、勉強や学校生活が送れるよう支援してくれた。

弟が学校で楽しかったことを話してくれるようになってきた。表情も明るくなった。家族みんなが喜んだ。この当たり前の生活を送るために、どれだけ弟は苦しんだのだろう。もっと早く弟の特性に気づき、生きやすい環境を作ってあげたかった。

弟と一緒に生活していると「当たり前」は人それぞれ違うことが分かる。おしゃべりが上手な人は話すことが得意だが、人前で話すことが苦手な人もいる。心の表現

の仕方もいろいろあり、言葉で伝えることができる人もいれば、態度で表現する人もいる。それが周囲の人達に不快な思いをさせてしまうかもしれない。しかし、本人達はそのようにしかできない。それを受け止めてあげる心の広さ、優しさを私は持ちたい。

私達はさまざまなことに挑戦したり、学んだりしている。目の前のことを力いっぱい取り組むことができる。これも「当たり前」にみんなが同じようにできると思いがちだが、そうではない。人はみんな、得意、不得意があるが、生きていく中で得意分野を生かすことで毎日を楽しく生きる喜びを持ってほしい。

今年は弟にとってたくさんの成長を感じる年だ。友達付き合いが苦手だったが放課後、学校のグラウンドで遊ぶことができるようになった。相変わらず、行く時気分はあまり乗らないが、帰宅してからは大変上機嫌で、表情も豊かである。きっと楽しい時間を過ごせたのだろう。あんなに外出するのが苦手だった弟が友達と一緒に外で遊べるなんて。家族の誰もが想像できなかったことだ。大きな成長であり、私達も大変うれしい。

また、祖父母の家へ遊びに行くことですら泣きながら嫌がっていた弟が、今年の夏、二泊三日の家族旅行に喜んで参加してくれた。いつもなら車から降りることがで

きず、スムーズに観光ができなかった。今回は事前にいくつかの情報を伝えておいたおかげか一緒に楽しく観光することができた。笑顔がいっぱいの旅行にすることができた。私達家族も、楽しさ倍増である。

弟にとっても以前に比べ、できることがだんだん増えてきて、毎日が充実しているように思える。「今度は、こうしたい」「これは僕がしないと」など、自分から挑戦する気持ちも持てるようになってきた。これからもどんどん前を向いて楽しいことを増やしていってほしい。

こんなに弟に笑顔が増えたのは、たくさんの人の支援のおかげである。学校の先生はもちろん、クラスの友達、近所のおじさんおばさん、そして家族。関わる方が弟に寄りそって、弟の気持ちを大事に生活してくれたおかげだと思う。このような輪がたくさんの場で広がってほしい。

本人にしかわからない息苦しさを感じながら生きている人はたくさんいる。今まではあまり関わることなく生活してきたが、その人達の心に寄りそい、また居ごこちの良い場所を作りたい。人生はつらいことばかりではない。お腹をかかえて笑えるぐらい明るい未来を作るお手伝いを心がけたい。弟のように。